



みなさん、こんにちは。校長の合浦英則です。今年度も様々な名言にちなんだエッセイを不定期にお届けします。これを通して何かしら感じてもらえたら嬉しいです。さて、今年度の第1回は…

プレッシャーを感じる前に、自分で対処すべきことがある。

生島淳『奇跡のチーム ラグビー日本代表、南アフリカに勝つ』

2015年ラグビーワールドカップ。エディー・ジョーンズ率いる日本代表は、強豪南アフリカを相手に劇的な逆転勝ちを収め、世界を震撼させた。エディー・ジャパンはなぜ日本ラグビーの歴史を変えることができたのか？選手・関係者40人近くへの徹底取材を通して、その理由を解き明かした傑作ノンフィクション。
(「Book」データベースから転載)

気がつけばGWも終わり、高体連集約大会・一部の高文連の大会が目前に迫ってきた。高野連も春季大会を終え、いよいよ夏の大会に向けて動き出した。

3年前、日本で開催されたラグビーW杯のキャッチコピーは「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」であったが、「一生に一度」なのはW杯も地区大会も同じだ。3年生にとっては最後の大会になる。コロナの影響で気を遣うことが多いが、全力を出せるよう最後まで頑張ってもらいたい。

今回紹介するのは、その日本開催のラグビーW杯から遡ること4年、イングランド大会での日本代表を追いかけたノンフィクション『奇跡のチーム ラグビー日本代表、南アフリカに勝つ』からの言葉である。決して妥協を許さないヘッドコーチのエディー・ジョーンズ。彼は最先端の科学を練習に取り入れ、必要とあらば他競技や異種の専門家を招いていた。メンタルコーチとして招聘された荒木香織さんもその一人。

さて、当初の予定にはなかったW杯にも帯同することになった荒木さん。そんな彼女のところに試合が近くなり緊張して眠れない選手が相談に来る。不安を感じる要素を書き出させるとキャッチミス、パスミスと綴られる。「それって誰でもするミスじゃないの？」と問うと歯切れが悪くなる。不安要素をさらに言わせると、

(選手)「南アフリカはやっばり強いだろうし、エディーからのプレッシャー、ファンや国民の期待もあると思う」

(荒木)「(それは) ひとりで抱え込むことじゃない。チーム全体のものであるし、そこまでのプレッシャーを感じる前に、自分で対処すべきことがあると思う」

(選手)「自分ができに集中するってことですか？」

(荒木)「そういうこと」

迎えた南アフリカ戦。試合前のエディーは次の言葉でメンバーを送り出した。

「歴史を変えるんだ。歴史を変えるチャンスは一度だけだ。」「日本という国に誇りをもってほしい。」

試合は29対32で最後のワンプレーを迎える。エディーはペナルティーゴールで確実に同点を狙うよう指示していたが、リーチ・マイケル主将のもとにチームのみんながあくまで逆転のトライを狙うスクラムを選択しましょうと言って来る。トンプソンが叫ぶ。「歴史を変えるのは誰？」そして、リーチはスクラムを選択する。こうして史上最大のジャイアントキリングは起きた。奇跡のチームとは、それぞれの役割を率先して見つけ、それを果たすメンバーがいてこそ、誕生する。

自分のできに集中することで三条高校に奇跡のチームが次々と誕生することを願う。



荒木香織さんによるメンタルの鍛え方について、パラサポweb「元ラグビー日本代表メンタルコーチが明かす『勝てないのは〇〇がないから』」(<https://www.parasapo.tokyo/topics/30204>) が参考になります。スポーツだけではなく本番に弱いと思う人はぜひご覧ください。